赤塚中学校だより　「赤中プライド」
平成２９年２月７日
HPアクセス数　１６６４４９
「時間を守る」「話をきちんと聴く」「清掃にしっかりと取り組む」
No.４１

新入生保護者説明会を行い，生徒会本部役員が学校紹介を行いました

2/3(金)，新入生保護者説明会を実施しました。各小学校の６年生児童も参加する予定でしたが，ほとんどの小学校でインフルエンザの流行による学級閉鎖を行っていたため，保護者への説明のみの開催となりました。６年生児童対象の見学会は，2/28(火)に延期して実施することにしました。説明会当日は，たくさんの保護者にお集まりいただき，生徒会の本部役員による学校説明を実施しました。プレゼンによる説明の後は，各部の部長等が一人ずつ登場し，ＰＲを兼ねて説明を行いました。説明会の最後には，生徒の案内による施設見学と部活動見学を行いました。赤塚中学校の雰囲気をわずかながら感じて頂けたかと思います。

現在の赤塚中学校の様子を伝えました

インフルエンザの罹患者が急増し，先週，インフルエンザの警報が茨城県全域に出されました。水戸市内の各小中学校においても学級閉鎖等の処置を実施した学校が多数見受けられました。本校においても罹患者が10名超見られますので，うがい，手洗い等をまめに行い未然防止に努めてください。

第32回水戸市学校保健大会で表彰されました。

2/1(水)，県民文化センター小ホールにて「生涯を通じて，心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」をスローガンに市学校保健大会が開催されました。

赤塚中学校が「水戸市健康優良学校」に，３年生の大内祐也さんと山口美優さんが「水戸市児童生徒保健体育賞」に選ばれ表彰を受けました。

人として一番大切だと思うもの

二年　須田　千子

「めんどくさい。」

これが私の口癖。

「めんどくさいなんて言ってないで、素直にやんなさい。」

これは、母が私に対して言い返す、決まり文句。

私は、イラッとして、

「うるさいなあ。」

と言い返してしまう。

そしてまた怒られる。

毎日、これをくり返す反抗期真只中の十四歳。

大人に何を言われても、すぐイライラしてしまうようになったのは、中学生になってからです。

そんな私が、中学校一年生だった頃の、夏のある日、所属しているソフトボール部の練習がいつもよりきつく感じました。

練習が終わり、自転車に荷物を積んで漕ぎ始めましたが、体が重く感じ、なかなか前に進みませんでした。

やっとの思いで家に着き、中に入り少し横になると、そこから体が動かなくなり、何故か悔しくて涙が出ました。

父も母も仕事で家には誰もいなかったので自力で立ち上がり、私は、その日から熱を測りました。

熱が下がらず、一週間程度学校を休んでしまいました。

ほんの少し調子が戻り、学校へ行くことができましたが、それだけで精一杯で、部活に行くことができなくなりました。

早退するほど気持ちが悪くなったり、体が石の様に重く感じたり、頭が痛くなったりしました。

このままでは、不安が募るばかりでだめだと思い、担任の先生に、調子が悪く部活までできないということを相談しました。

すると先生は、

「部活の先生とお話してみたら。」

とおっしゃってくださいました。

早速、今後のことについて、部活の先生とお話することにしました。

そこで私は先生に、部活に休まず参加したいということ、自宅では自主練もしたいということ、そして部活は絶対に辞めないということを、伝えることができました。

先生と話している間、私は苦しくて涙が出ました。

調子を治すことが一番だぞ。」

先生はいつまでも待ってるからな。」

とおっしゃって下さり、うれしくてまた別の涙が出ました。

そして私は、体調が回復するまで休むことになりました。

約半年間休ませて頂きましたが、その間も部活に行けないという悔しさや情けなさで、いっぱいでした。

その間、保健室の先生にも、物の考え方などを教わりました。

私は、その半年間、思うように体が動かせずとても苦しかったことを今でも覚えています。

そして、体育の学習もほぼできるようになり私は部活に戻らせて頂くことになりました。

最初はとても不安だったけれど、チームメイトが、

「待ってたよ。」

「久しぶり。」

と一緒にがんばろうね。」

など、優しく声をかけてくれて、私の周りにはすばらしいチームメイトがいて、とても幸せだなと心から思いました。

部活に戻って最初は、全部の練習メニューをみんなと同じ様にはできないので見学していました。

そこで私は、半年ぶりにチームメイトの練習する姿を見て、あることに気づきました。

先生がいつもおっしゃっていたことを素直に受け入れ、返事をきちんとしていた人は、前よりずっと守備もバッティングも投球も上達しているのでした。

私は今までみんなと一緒に練習ができず、何でできないんだろうと考えてしまい、辛いことばかりだと思っていたけれど、調子が悪くなったということが、私にとってプラスに生きたと、そこで初めて思いました。

それから私は、部活動や学校生活で、失敗しても、試行錯誤し、何でも前向きに、素直にとらえて、自分に生かそうとしています。

最後に、私が一番大切だと思うことは、素直に人の話を聞き、はい！」

と返事をし、たまには一歩下がって周りをよく見ることだと思います。

私は、たくさんの人達に心から感謝をしています。

ありがとうございました。

ちなみに、私の夢は、茹だるような夏の日、青空に白いボールを打ち上げ、ダイヤモンドを一周することです。

この作文は今年度開催された第三十一回水戸市少年の主張大会作文集に掲載された作品です。